

キャリア教育の推進は、 学校教育の職業的レリ バンスを高めるか？

児美川 孝一郎 （法政大学）



1. 日本の学校教育の職業的レリバンスの弱さ


■ 普通教育としての技術・職業教育

中学校の「技術・家庭科」(「技術」の部分は、「情報」を含めて、3年間で90時間弱

cf. ユネスコ「技術・職業教育に関する条約」(1989年採択, 1991年発効, 日本政府は未批准)「技術・職業教育に関する改正勧告」(1974年採択, 2001年最新版)によれば, 前期中学校までは必修科目を通して, 後期中等教育以降も選択科目を通して教えられるのが, 国際的な“常識”

■ 職業指導

中学校・高校普通科の進路指導の一部, 職業学科

- 
- 学問ベース(コンピテンシー・ベースではない)小・中・高校のカリキュラム
 - 職業準備としての技術・職業教育
 - 高校専門学科の在籍生徒比率は, 27.7% (「総合学科」4.7%および「その他の学科」3%を含む)
 - cf. 諸外国では, 後期中等教育段階の生徒の多数は, 職業教育を主とする課程に在籍。そうでない国でも, 学校システム外に充実した職業訓練システムが存在
 - 高校専門学科における職業教育科目の比重の低下
35単位(1955)→30単位(1978)→25単位(1999)
 - 大学の文系学部における卒業生の就職動向



2. キャリア教育の導入へ

- 職業的レリバンスの弱い日本の学校教育システムを可能にしてきたのは、日本的な採用・雇用システム（新規一括学卒採用＋企業内教育訓練）
- 1990年代以降、学校教育システムと雇用システムとのリンクが崩れはじめてきた
 - 若年雇用問題の社会問題化を契機に、ある種の危機感を背景として、キャリア教育の導入へ
 - 初等・中等教育～政策的に強引に導入
 - 高等教育～就職難と「生き残り」競争を触媒にして



3. キャリア教育の内容(初等・中等教育)

- 大目標は,「勤労観・職業観」の育成
- 身につけさせるべき能力は,「人間関係形成能力」「情報収集・活用能力」「将来設計能力」「意志決定能力」
- 主な施策
 - ①職場体験・インターンシップの推進
 - ②学校の教育課程における「キャリア学習」
 - ③「スーパー専門高校」
 - ④「日本版デュアルシステム」の試行
 - ⑤キャリアアドバイザーの配置



4. 問題点

- 職業教育, 専門的知識・技能の獲得を軽視
- 生徒の意識, (ジェネリックな)能力・資質を「改善」することで, 雇用問題に対処しようとする構え
- 「キャリア教育」の範囲・対象の無限定性
「生きる力」「(在り方)生き方」
学校の教育活動全体を通じて…

5. キャリア教育の内容(大学)

図表2 キャリア教育の授業内容の分類

科目分類	内容領域	授業内容
大学生生活導入系	大学生生活適応支援	大学生の時間割、学生生活の過ごし方、大学時代にチャレンジしたいこと
	スタディスキル	レポート・論文の書き方、学習生活の設計、情報の収集・検索・整理・活用
	コミュニケーション力	コミュニケーション基礎、プレゼンテーション、文章表現、文章作成の仕方
社会理解系	社会マナー	マナー講座、ビジネスマナーの知識と実践、社会人としてのマナーの知識と実践
	働くことの意味	職業と私、私の仕事観、職業とは何か、働くことの意味
	企業・業界理解	企業の組織と仕事、各業界の動向と企業研究、会社の知識
	インターンシップ	企業から見たインターンシップ、インターンシップ講座
キャリア開発系	自己理解	自己分析の必要性と方法、自己分析、自分研究
	キャリアデザイン	キャリアデザインをする、ライフプランとキャリアプラン、人生をいかに生きるか
就職対策系	就職活動対策	就職準備への心得、就職活動スケジュール、エントリーシート作成、面接実践対策
	一般知識・常識	経済用語と基礎的な経済知識、政治分野の時事用語解説、一般常識講座

松高政@進研アド『BETWEEN』
2004年12月号, より

※ 正課外および正課教育

※ 概念が広すぎ? あるいは、
雑多な課題を引き受けすぎ?

導入教育, 初年次教育

ソーシャルスキル・トレーニング

基礎教育


就職対策



6. 問題点

上西充子編『大学のキャリア支援』経営書院, 第5章(川喜多喬
執筆)より

- 就職技法偏重
- 安易な適職選択
- 視野を狭める自己分析
- 物見遊山気分の職業知識教育
- 職業能力教育蔑視
- 本人を責める職業倫理教育
- 狭義のキャリア教育ではできない積極的態​​度教育




- 「キャリア教育(キャリア支援プログラム)」と「専門課程教育」の乖離

本体は旧態依然たるままにしておいて、付け足しで事足り？ → 専門教育そのものを“キャリアoriented”にしていくべき



7. 若干の論点(問題提起?)

- 日本的な雇用システムは、再編されてきたといっても、完全に崩れたわけではない
→ 大学が、専門教育(職業的レリバンス)を強めることといわゆる「文系就職」の実態とのあいだ…?
- そもそも、中教審「将来像」答申(2005)がいう機能別分化の「総合的教養教育」「地域の生涯学習機会の拠点」「社会貢献機能」型の大学・学部が、専門教育を強めるとはどういうことで、それは職業的レリバンスを強めることになるのか?

- 
- 「ビジネス・キャリア検定試験」(中央職業能力開発協会)のようなものは、成功しているのか？ 必要なのか？
 - そもそも、「キャリア」というコンセプトを導入して時点で、視点は「職業」の側から、「個人」の側に移行している
 - 同様に、大学教育の質(保障)を考える場合にも、「学術」や「職業」の側からではなく、「個人」の側から考えるという発想はないのか？